

令和4年8月29日14時00分
近畿地方整備局
紀南河川国道事務所

交通の円滑化による利便性向上の効果を発揮

～ 国道42号 ^{たなべにし}田辺西バイパスの整備効果 ～

国道42号 ^{たなべにし}田辺西バイパス(延長3.8km)のうち、^{たなべ}田辺市 ^{はやちようせいじろ}芳養町清地路～^{おおや}同町大屋間の延長1.6kmが令和4年3月20日(日)に開通し、全線開通しました。
この度、開通後の整備効果を取りまとめましたので、お知らせします。

■開通後の交通状況の変化

○開通区間に並行する国道424号(旧国道42号)の交通量は約5割減少

■開通による整備効果

○^{たなべにし}田辺西バイパス並行区間(^{はくまい}白馬交差点～^{たなべ}パビリオンシティ田辺)の所要時間が
10分から7分に短縮

【所要時間】

開通前(現国道424号利用) ⇒ 10分

部分開通後(^{はや}芳養ランプ交差点から^{たなべにし}田辺西バイパス利用) ⇒ 9分(1分短縮)

完成開通後(^{はくまい}白馬交差点から^{たなべにし}田辺西バイパス利用) ⇒ 7分(3分短縮)

<取 扱 い>

<配布場所>	近畿建設記者クラブ	大手前記者クラブ
	和歌山県政記者クラブ	和歌山県政放送記者クラブ
	和歌山県地方新聞記者クラブ	田辺記者クラブ

<問合せ先> 国土交通省 近畿地方整備局 紀南河川国道事務所

副所長 ^{ほんだ あきら}本田 明

工務第二課長 ^{すえなが たかし}末永 卓

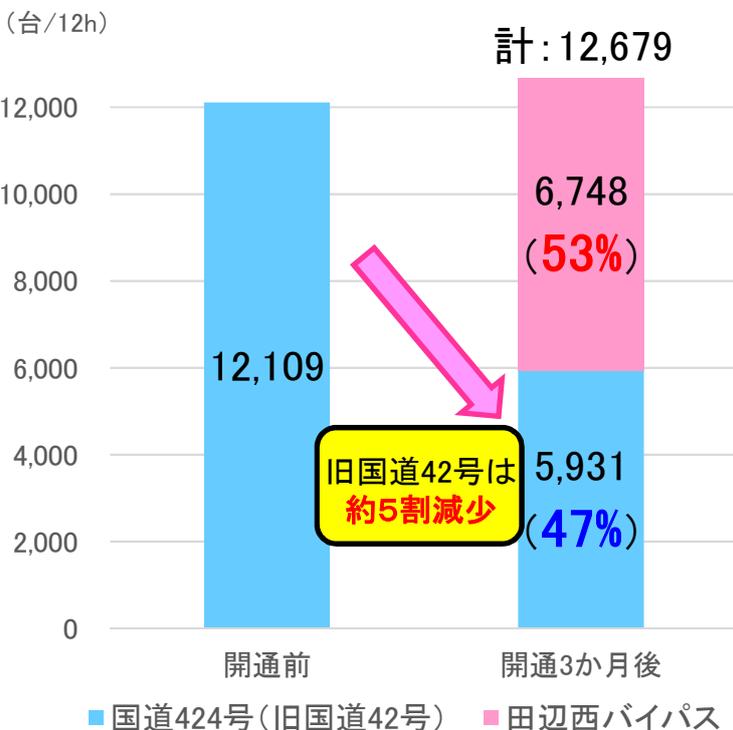
TEL 0739-22-4564(代表)

① 開通後の交通状況の変化(交通量)

- ◇田辺西バイパスの開通区間における交通量は約6,700台(昼間12時間)ありました。
- ◇開通区間に並行する国道424号(旧国道42号)の交通量は、約5割減少しました。



■開通前後の交通量の変化



《交通事業者の声》

みなべ町から田辺市方面への路線において、芳養松原交差点の渋滞がなくなり、バス運行が大変スムーズになりました。
(地元路線バス運行会社)



《消防関係者の声》

走りやすい道路が整備され、通過する信号交差点が減った(国道424号から国道42号に経路が変更)ことから、救急搬送の際、速度を落とさず走行でき、所要時間が短縮されたと感じます。
(田辺市消防本部)



紀南河川国道事務所ヒアリング調査(R4.7)

交通量出典: 紀南河川国道事務所調査

開通前 令和4年3月9日(水) (7時~19時)

開通3ヶ月後 令和4年6月16日(木) (7時~19時)

一般国道42号 田辺西バイパスの概要

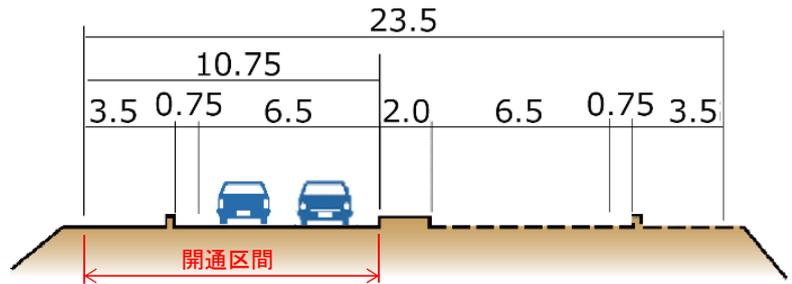
田辺西バイパスは、近畿自動車道紀勢線南紀田辺ICへのアクセス道路としての役割を担うとともに、紀伊半島沿岸部をつなぐ唯一の主要幹線道路である国道42号の交通混雑の緩和、地域住民の利便性向上、交通安全の確保、災害時の交通確保を目的とする道路です。

○開通概要

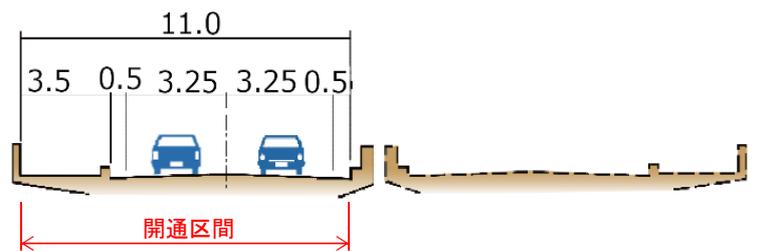
区間	(起) 和歌山県田辺市芳養町清地路 (終) 和歌山県田辺市芳養町大屋
道路延長	1.6km
構造規格	第3種第2級
設計速度	60km/h
車線数	暫定2車線
標準幅員	23.5m

○標準断面図（開通区間）

【一般部(土工部)】



【橋梁部】



○主な事業の経緯

年 度	事業実施項目
平成9年度	事業化
平成13年度	用地着手、工事着手
平成19年11月	IC区間(0.6km)完成4車線供用 (田辺市稲成町稲成)
平成26年3月	一部区間(1.6km)暫定2車線供用 (田辺市稲成町稲成～芳養町清地路)
令和4年3月	残りの区間(1.6km)暫定2車線供用 (田辺市芳養町清地路～同町大屋) により、田辺西バイパス全線開通
令和4年4月	現道区間を和歌山県へ移管 県道秋津川田辺線 稲成ランプ交差点～稲成町交差点 一般国道424号 稲成町交差点～白馬交差点

